

令和2年度 農林水産省における生物多様性関係予算概算決定の概要

対策のポイント

農林水産省生物多様性戦略及び生物多様性国家戦略 2012—2020 に基づき、農林水産業における生物多様性に関する取組を一層推進するとともに、ポスト 2020 目標を踏まえ、農林水産省生物多様性戦略を見直します。

<背景／課題>

- ・農林水産業は、自然界の多様な生物が関わる循環機能を利用しており、持続可能な農林水産業の維持・発展のためには、生物多様性の保全は不可欠だが、担い手の減少等による農林水産業の活動の停滞に伴い、種の減少や鳥獣被害が深刻化。
- ・2015年の国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向け、農林水産分野においても、持続可能な農林水産業の推進や多様な主体との連携等が重要。
- ・これらの背景を踏まえ、農林水産省生物多様性戦略及び生物多様性戦略計画 2012-2020 に基づき、我が国の農林水産業における生物多様性に関する取組を多様な主体と連携しながら推進することが重要。
- ・また、2020年10月に開催される生物多様性条約第15回締約国会議で決定される予定のポスト 2020 目標を踏まえ、「農林水産省生物多様性戦略」を見直し、農山漁村における環境と調和した農林水産業の実現をさらに推進するとともに、SDGs の達成への貢献を促す必要。

政策目標

- 生物多様性をより重視した農林水産業の推進
- 我が国の農林水産業の生物多様性への貢献

<主な内容>

1. 生物多様性条約の目標やSDGsの達成への貢献

生物多様性条約のポスト 2020 年目標を踏まえ、生物多様性保全に貢献する持続可能なフードサプライチェーンのあり方等について有識者と検討し、農林水産省生物多様性戦略の見直しを実施します。また、環境と調和した活動に取り組む農山漁村の自治体と企業等のステークホルダーの連携を推進するため、農山漁村におけるSDGsの取組事例の整理や発信を行うセミナーを実施します。

【フードサプライチェーンの環境調和推進事業 25（一）百万円の内数】

2. 田園地域・里地里山における保全

- (1) 農業者の組織する団体等が実施する化学肥料・化学合成農薬を原則5割以上低減する取組と合わせて行う生物多様性保全等に効果の高い営農活動を支援します。

【環境保全型農業直接支払交付金 2,451（2,451）百万円】

(2) たい肥の施用量の減少等により、農地土壌の劣化がみられる中、土壌診断を通じた土づくりの取組拡大を図るため、①簡便な処方箋サービスの創出に向けた土壌診断データベースの構築等を支援するとともに、②生産現場への実装に向けて、規模拡大等に対応した土壌評価手法や新たな評価軸としての生物性評価手法の検証・評価を支援し、全ての生産者が科学的データに基づく土づくりを実施できる環境を整備します。

【スマート農業総合推進対策事業のうちデータ駆動型土づくり推進 120 (一) 百万円】

(3) 農業者等で構成される活動組織が農地を農地として維持していくために行う地域の共同活動や、地域住民を含む活動組織が行う地域資源の質的向上を図る共同活動を支援します。

【多面的機能支払交付金 48,652 (48,652) 百万円】

(4) 野生鳥獣被害の深刻化・広域化に対応するため、地域関係者が一体となった被害対策の取組や、ジビエ利用拡大に向けた取組を支援します。

【鳥獣被害防止総合対策交付金 10,010 (10,227) 百万円】

3. 森林の保全

(1) 森林の多面的機能の発揮を図るとともに山村地域のコミュニティを維持・活性化させるため、地域住民等による森林の保管理活動等の取組を支援します。

【森林・山村多面的機能発揮対策 1,353 (1,425) 百万円】

(2) 森林における生物多様性保全を推進するため、全国土の森林を対象に植生等の生物多様性に関する定点観測、データの分析等を実施します。

【森林生態系多様性基礎調査 322 (326) 百万円】

(3) 世界遺産の森林生態系を適切に保管理していくために必要な技術開発、科学的知見の収集及び保全対策を実施します。

【世界遺産の森林生態系保全対策事業 76 (77) 百万円】

4. 里海・海洋の保全

(1) 漁業者等が行う水産業・漁村の持つ多面的機能の発揮に資する藻場・干潟等の保全など地域の取組を支援します。

【水産多面的機能発揮対策 2,299 (2,855) 百万円】

(2) 水産生物の生活史に対応した藻場・干潟から沖合域までの良好な生息環境空間を創出する水産環境整備を推進します。

【水産環境整備事業 13,704 (15,351) 百万円】

(3) 漁場環境の保全の観点から、大規模に衰退したサンゴの効率的・効果的な保全・回復を図るため、サンゴ礁の面的な保全・回復技術の開発・実証を行います。

【厳しい環境条件下におけるサンゴ礁の面的保全・回復技術開発実証事業

153 (153) 百万円】

5. 遺伝資源の保全と持続可能な利用の推進

気候変動等に対応した新品種の開発に必要な海外遺伝資源の取得や利用を円滑に進めるため、遺伝資源保有国における遺伝資源に係る制度等の調査、遺伝資源の保全の促進及び信頼関係の構築に向けた能力開発（キャパシティビルディング）、遺伝資源の取得・利用に関する手続・実績の確立とその活用に向けた周知活動等を実施します。

【気候変動等に対応した海外遺伝資源の保全・利用促進事業 28（31）百万円】

6. 生物多様性保全及び持続可能な利用に関する研究開発

農林水産業の競争力強化に向けて、アジア地域の途上国等と植物遺伝資源に係る二国間共同研究を推進し、我が国ジーンバンクへの有用な遺伝資源の導入・利用を進め、民間種苗会社等による新品種の開発を支援します。

【農林水産研究推進事業 2,293（2,730）百万円の内数】

[お問い合わせ先：大臣官房政策課環境政策室（03-3502-8056（直））]

令和2年度 農林水産省における生物多様性関係予算概算決定の概要

農林水産省生物多様性戦略及び生物多様性国家戦略2012-2020に基づき、農林水産業における生物多様性に関する取組を一層推進するとともに、ポスト2020目標を踏まえ、農林水産省生物多様性戦略を見直します。

1. 生物多様性条約の目標やSDGsの目標への貢献

生物多様性条約のポスト2020年目標を踏まえ、農林水産省生物多様性戦略の見直しを実施します。また環境と調和した活動に取り組む農山漁村の自治体と企業等のステークホルダーの連携を推進するため、農山漁村におけるSDGsの取組事例の整理や発信を行うセミナーを実施します。【フードサプライチェーンの環境調和推進事業 25(-)百万円の内数】

2. 田園地域・里地里山における保全

(1) 農業者の組織する団体等が実施する化学肥料・化学合成農薬を原則5割以上低減する取組と合わせて行う生物多様性保全等に効果の高い営農活動を支援します。【環境保全型農業直接支払交付金 2,451(2,451)百万円】

(2) 土壌診断を通じた土づくりの取組拡大を図るため、土壌診断データベースの構築等を支援し、全ての生産者が科学的データに基づく土づくりを実施できる環境を整備します。【スマート農業総合推進対策事業のうちデータ駆動型土づくり推進 120(-)百万円】

(3) 農業者等で構成される活動組織が農地を農地として維持していくために行う地域の共同活動や、地域住民を含む活動組織が行う地域資源の質的向上を図る共同活動を支援します。【多面的機能支払交付金 48,652(48,652)百万円】

(4) 野生鳥獣被害の深刻化・広域化に対応するため、地域関係者が一体となった被害対策の取組や、ジビエ利用拡大に向けた取組を支援します。【鳥獣被害防止総合対策交付金 10,010(10,227)百万円】

3. 森林の保全

(1) 森林の多面的機能の発揮を図るとともに山村地域のコミュニティを維持・活性化させるため、地域住民等による森林の保全管理活動等の取組を支援します。【森林・山村多面的機能発揮対策 1,353(1,425)百万円】



支援対象例：
里山林の保全

(2) 森林における生物多様性保全を推進するため、全国土の森林を対象に植生等の生物多様性に関する定点観測、データの分析等を実施します。【森林生態系多様性基礎調査 322(326)百万円】

(3) 世界遺産の森林生態系を適切に保全管理していくために必要な技術開発、科学的知見の収集及び保全対策を実施します。【世界遺産の森林生態系保全対策事業 76(77)百万円】

4. 里海・海洋の保全

(1) 漁業者等が行う水産業・漁村の持つ多面的機能の発揮に資する藻場・干潟等の保全など地域の取組を支援します。【水産多面的機能発揮対策 2,299(2,855)百万円】



支援対象例：
干潟の保全

(2) 水産生物の生活史に対応した藻場・干潟から沖合域までの良好な生息環境空間を創出する水産環境整備を推進します。【水産環境整備事業 13,704(15,351)百万円】

(3) 漁場環境の保全の観点から、大規模に衰退したサンゴの効率的・効果的な保全・回復を図るため、サンゴ礁の面的な保全・回復技術の開発・実証を行います。【厳しい環境条件下におけるサンゴ礁の面的保全・回復技術開発実証事業 153(153)百万円】

5. 遺伝資源の保全と持続可能な利用の推進

遺伝資源保有国における遺伝資源に係る制度等の調査、遺伝資源の保全の促進及び信頼関係の構築に向けた能力開発(キャパシティビルディング)、遺伝資源の取得・利用に関する手続・実績の確立とその活用に向けた周知活動等を実施します。【気候変動等に対応した海外遺伝資源の保全・利用促進事業 28(31)百万円】

6. 生物多様性保全及び持続可能な利用に関する研究開発

農林水産業の競争力強化に向けてアジア地域の途上国等と植物遺伝資源に係る二国間共同研究を推進し、我が国ジーンバンクへの有用な遺伝資源の導入・利用を進め、民間種苗会社等による新品種の開発を支援します。【農林水産研究推進事業 2,293(2,730)百万円の内数】